

外国書講読（Ⅱ）学習調査レポート講評

1月22日（木）実施の学習調査レポートの結果を講評する。レポート課題は「アゲシラオス遠征時のペルシアの事情について論ぜよ」であった。つまり「アゲシラオス遠征時」というのはレポートが扱う時期を限定しているということ。レポートの本題は「ペルシアの事情」について論じるということに気付いて欲しかった。レポートの多くはアゲシラオス遠征にまつわるペルシアとスパルタの関係を論じていた。これはレポート課題を十分に理解していないということの結果である。課題は丁寧に理解しようという姿勢を養っておくことが重要である。

ペルシアの事情はペルシア国内と国外とに分けて考えてみよう。ペルシア国内ではペロポネソス戦争後の前404年に登極した。しかしその即位に関して弟の小キューロスは異を唱え、兄に対して反乱を起こす。しかし反乱は前401年のクナクサの戦いで小キューロスが戦死することで終焉を迎えることになる。

小キューロスの反乱はペルシア帝国が抱える大きな問題を露呈している。属州総督の間の競争と反目がそれである。「カラノス」という上級総督であった小キューロスとティッサフェルネスが対立していたことは有名であるが、小キューロス死後ティッサフェルネスがカリアやリュディアに総督として着任すると新たな問題が出来る。ペロポネソス戦争中小アジア北部の総督としてアテナイと戦ったファルナバズスが王から大きな信頼を得ているティッサフェルネスと対立するのである。両者はスパルタを相手に手を組むが、反目と路線のすれ違いは残されたままであった。

小アジアにおけるペルシア人貴族はティッサフェルネスやファルナバズスに対して強い不満を抱いていた。カリア防衛に集中するティッサフェルネスの方針に不満を抱いていたサルデイスのペルシア人らは王に訴え、ティッサフェルネスの処刑を引き起こすこととなったし、スピトリダテスは総督のファルナバズスへの不満からアゲシラオスの陣営に身を投じ、リュギア遠征を助言している。

ペルシア帝国の宗主権下にある諸民族もペルシアの支配に満足してい

たわけではない。エジプトは前 404 年にアミュルタイオスが第 28 王朝を 29 王朝を興し、スパルタに艦船や食料を提供してペルシアの力を削ごうとしている。小アジアのギリシア諸都市は自由を求めてペルシアの干渉と支配を排しようとし、ティブロンに始まる一連のスパルタの軍事行動を招いている。キプロスではサラミスの王エウアゴラスが全島の支配の確保をもくろんでアテナイ人亡命者コノーンを迎え入れて軍の増強を図っていたし、フリュギアではアゲシラオスはその協力を当てにするほどペルシアに対してミューシア人が抵抗を続けていたのである。

そのような状況の中でアルタクセルクセス 2 世は小アジアからのスパルタの排除とエジプトの回復を望んでいた。しかしエジプトを回復するには地中海の制海権を掌握しなければならず、その為にはスパルタを洋上から駆逐しなければならなかったのである。そこでアルタクセルクセス王はコノーンをペルシア艦隊の司令長官に迎え、ファルナバズスと共にキリキアで艦船の大規模な建造を行わしめ、王は小アジアでの決戦を望み、ティッサフェルネスやファルナバズスを使ってスパルタ軍の略奪から国土を守ろうとしたのである。

この様なペルシア王の計画に対してレヴァントの地方君主はペルシアに協力的であり、シドンの王がそうであるようにペルシアの海上での行動に積極的に加担しようとする姿勢を示していた。同時にキプロスのエウアゴラスはスパルタに対する敵意から少なくとも現状においてはペルシアに協力する態度を示している。問題はキプロスの現状を打ち壊して全島を支配しようという野心を抱いているということであろう。

しかし海上での対決を進めていくには深刻な問題が横たわっていた。資金の問題である。キリキアの艦隊は資金不足に苦しめられ、兵士らは指揮官の命令に反抗し、暴動を起こすという事件が生じている。原因の一つは王の代理人が兵士の給与を横領し、王の資金が兵士にまで十分に行き渡らないという腐敗の構造が横たわっている。エーゲ海を制圧しているスパルタ艦隊と対抗するには潤沢な資金をコノーンに提供する必要があった。

対外的にはスパルタとの関係が重要である。背景にはペルシアの支配に対するイオニア諸都市の動向があるが、スパルタとはペロポネソス戦争中

に結ばれた条約があり、小アジアの諸都市はペルシア王の宗主権下に入る
ということをスパルタは承認している。同時にスパルタはギリシア諸都市
の自由を旗印にペロポネソス戦争を主導してきた経緯があり、それを引き
下ろすのは相当の政治力を要求されることになる。

以上がアゲシラオス遠征時のペルシアの事情である。

これまでの小レポートのポイント

1. 小キューロスの反乱の後の情勢

クナクサの戦い（前 401 年）・・・反乱の失敗

小アジア・・・ティッサフェルネスの復権とギリシア諸都市への服従要求・
イオニア諸都市の拒否・キューメーの破壊

エジプトの独立・・・アミュルタイオスの即位・・・エジプト戦線

エジプトとスパルタの同盟成立

前 399 年にスパルタ軍の小アジア上陸

2. ティブロン→デルキュリダス

ティッサフェルネスとファルナバズスの対立、ティッサフェルネスに将軍
の称号

カリア略奪の危機→デルキュリダスとの交渉→小アジアからの撤退・ギリ
シア都市への自由を要求

3. アミュルタイオス（28 王朝）による上エジプトへの拡大：404 年～341
年までエジプト独立

ティブロンへのティッサフェルネスへの遠征

ギリシア諸都市によるティブロンへの強奪に対する不満

デルキュリダスによるファルナバズズに対抗してティッサフェルネスを
利用

4. ティッサフェルネスとファルナバズスの合流・・・左翼を担当

エウアゴラス、キプロスの支配を目指す・巨大な武装化計画

スパルタ人司政官の撤去

ファルナバズズ・・・大胆な海上攻勢

5. キプロスのエウアゴラス→スパルタに対する敵意の共有→ペルシアに

貢税支払いに合意

コノンの登場→ファルナバズスによる王の命令書の伝達→キリキアで艦船の艤装→フェニキア戦隊の合流=レヴァント地方のペルシア支配の確保

6. シドン王の協力。ティッサフェルネスとファルナバズスの指揮権分割。
コノンの水兵らの暴動。

7. アテナイのペルシア接近（コノンへの乗組員派遣）

アルタクセルクセス：エジプトの回復→地中海の制海権奪取が不可欠→エーゲ海沿岸の支配権を取り戻す為の戦争

エジプトのネフェリテス 2 世（29 王朝）のスパルタへの艦船と食料提供

8. 東地中海におけるペルシアの攻勢という危機→アゲシラオスの派遣

ティッサフェルネスによる時間稼ぎ

マイアンドロス川に兵力の終結

9. アゲシラオス、資金確保の問題→馬匹を養わねばならない都市の非常に富裕な市民のリストの作成

前 395 年、サルデイスへの攻勢→ティッサフェルネス、カリアの防備強化
→ティッサフェルネスの処刑

10. アゲシラオスのヘレスポントスのプリュギア遠征・艦隊指揮権の掌握

11. ケライナイへの遠征・ペルシアに対するミューシア人の反抗・ペルシア人貴族スピトリダテスの接近

12. アゲシラオスの大プリュギア遠征とゴルディオオン攻略の失敗。